

2月5日(木)~3月6日(金) 満月セレクト

— 今回のセレクトアーティストご紹介 —

Music Selector : 久保田 麻琴



久保田 麻琴

1970's:同志社大在学中より、ソロとして、また伝説のノイズ系カルトバンド 裸のラリーズのメンバーとして活動スタート。サンセットの前身である夕焼け楽団時代には、エリック・クラプトン初来日公演の全国ツアーにオープニングアクトとして参加。プロデューサー、アレンジャーとして喜納昌吉の本土紹介にも関わる。1980's:サンセットとともに海外でも広く活動し、ジャパンのオープニングでの英国ツアーをはじめ、世界各地でインエクセス、トーキング・ヘッズ、ユーリズミックスなどと共演。84年にはシングルが豪州全国チャート・イン。1990's:プロデューサーとしてザ・ブーム、ディック・リーなど多くのアーティストのプロデュースをてがける。99年には細野晴臣とのユニット、ハリートリックで久々にロック・シンガー・ソングライターとしてカムバック。00年には、ザ・バンドのレボン・ヘルムやガース・ハードソンなどと共演したソロ作品ON THE BORDERを発表。BLUE ASIAプロジェクトをスタート。2007-9年にかけて、共同プロデューサーとして映画Sketches of Myahkを製作。同作品は、スイス、ロカルノ国際映画祭での正式招待を受けた。2012年より全国ロードショーは約3万人の観客を動員。また大友克洋の最新アニメ作品「火要鎮」(ショートピース)のサウンドトラックを制作した。

今回のセレクトCD

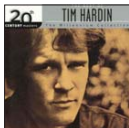
1.



Karen Dalton / In My Own Time (Light In The Attic / LITA 022)

70sフォーク界の“ピリー・ホリディ”ともいうべき哀愁のシャガレ声は得難い。ザ・バンドやモータウン・カバーなどソウルフルな名曲揃い、70/71年のウッドストック録音の名盤。

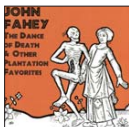
2.



Tim Hardin / 20th Century Masters: Millennium Collection (Polydor / AA4400164052)

Karen Daltonの兄貴分ともいうべき60年代を代表するシンガー&ソング・ライター。数々の名曲はカーペンターズやロッド・スチュアート、アストルッド・ジルベルトにもカバーされた。本人の繊細な歌唱はとても魅力的で、ジャジーさとカントリー・フィール両方を持ち合わせ、右にできるものはいないほど魅力的。

3.



John Fahey / Volume 3-The Dance Of Death & Other Plantation Favorites (Takoma / CDTAK 8909)

デルタ・ブルーズのフィンガー・ピッキングを元にしながら、独自の実験精神旺盛なスタイルを60年代に確立した。カフェ・フォーク・シーンの中でひたすら唄わず黙々と饒舌なギターを引き続けるオーラは凄い。響きの中のカリスマ性は多くのアーティストに影響を与えた。

4.



Bruce Langhorne / Peter Fonda's "The Hired Hand" Score (Blast First Petite / PTYT 002)

ポップ・ディランやリッチー・ヘイヴンズ、ミミ&リチャード・ファリーニヤなど60年代グレニッジ・ヴィレッジのフォーク・アイコン達には欠かせなかったバック・ギタリスト。初のリーダー・アルバムは、ピーター・フォンダのイージーライダーのすぐ後の西部劇のサウンドトラック。映画自体 Acid Westernと呼ばれたようにマカロニ風に見せながら随所にサイケとも云える耽美的な画面をちりばめ、そのサウンド・トラックもアンブラドかつミニマルで、まるでニューエージ音楽の祖父という趣き。

5.



Bobbi Jene & The Bullet / Bobbi Jene and The Bullet (Mountain music records / MMR004)

上記4枚のアンブラド&アシッドな持ち味を2015年に凝縮した音楽は、なんとイスラエルのテル・アヴィヴから登場。テル・アヴィヴの音楽シーンを代表するバンド、BOOMPAMの元メンバー、Uzi Ramirezの別プロジェクト、Bobbi Jene & Bullet。「Baby Jesus」は名曲。なんとなくNancy Sinatraと Lee Hazewoodを感じさせるところが…。